



こんにちは、まちかど図書館ぼたんです！
日ごとに夏らしさを感じるころとなりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。ぼたんだより6月号では、少し季節を遡り、今年2月のゼミ（金沢市街には、歩道にたくさんの雪が残っていました）のフィールドワークについて報告した5月のイベントの様子を、そして、6月6日（土）、7日（日）に、北石堂町区民として参加させて頂いた、ながの祇園祭をご紹介します。



Topic 01 第18回イベントを開催しました！

2026年5月31日（日）に第18回目となるイベントを行いました！

今回は、2月の3年生・4年生合同フィールドワークで訪れた2か所のみんとしよでの学びを報告しました。さらに、金沢市の「Community&Library コトノハ」と、加賀市の「おんせん図書館みかん」の取り組みと比較しながら、今後の「まちかど図書館ぼたん」について座談会を行いました。



【Community&Library コトノハについて】

フィールドワークの1日目と2日目に訪れたCommunity&Libraryは石川県金沢市の石引町に位置しています。本をきっかけに地域の交流を深める「小さな図書館」を金沢の石引商店街につくりたい！という思いからクラウドファンディングに挑戦されました。クラウドファンディングは2022年9月1日～10月31日に実施され、完成しました。

【基本的な機能】

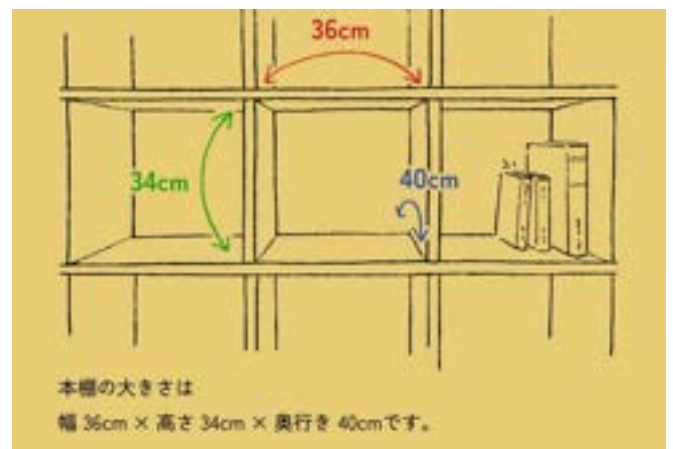
1.本を読む・借りる

コトノハでは、初回のみコトノハカードを500円で作成し、その後は1人5冊まで、3週間無料で借りることができます。また開館時間内であれば、館内の本を無料で自由に読むことができます。

2.本棚オーナーになる

オーナーになる場合、月額2,000円（年間2,200円）か学割価格1,800円（年間20,000円）のお支払いが必要です。

オーナーになると、コトノハとしよ係（お店番）ができる、コトノハ図書館カードが作れる、オーナー名刺が作れる（年間プランご利用の方）といった特典がってきます。棚は一箱本棚オーナー制度で、オーナーの契約期間内であれば、いつでも自由に本の入れ替えをすることが出来ます。また1冊以上本を置くことを条件に、広告物や制作物などを展示頂くこともできます。





3. 本の寄贈について

コトノハでは、活動を応援いただくかたによる本の寄贈も活動の支えになっています。本が増えた場合は、転売することで運営費にするなどの工夫がされている。これは、焼津市のみんなの図書館さんかくでも同様である。

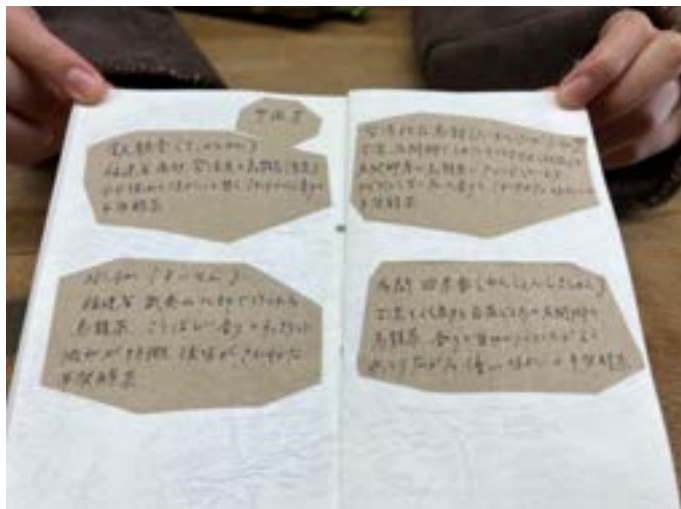
4. イベント・チャレンジスペース

コトノハはみんなとよとして、だけではなく、イベント・チャレンジスペースとしても活用されている。一棚本棚オーナーになっていただき、お店番をお願いするという条件付きで、一時間1100円で借りられる。



【カフェ機能】

コトノハではカフェ機能があり、ドリンクの提供を行っていました。ドリンクの種類はコーヒー、紅茶だけでなく中国茶やハーブティーなど約15種類ありました。値段はどれでも一杯500円で、一緒にお菓子もいただけます。手書きのメニュー表や手作りのコースターに個性があり、参考になりました。私たちの手土産も、すぐにお菓子の一つとして出されています。オーナー様や利用者様が持ってこられたお菓子をお裾分けするような感じで、とても素敵です。



【図書館機能】

コトノハでは本棚オーナー様がお店番をすることもあり、オーナー様への特典の一つとなっています。本棚の壁にはたくさんの付箋が張られており、そこには感想が書かれています。その感想に対してお返事も書かれており、コミュニケーションを取る場所となっていました。



【コトノハ周辺の様子について】

コトノハの前には、国道が通っていて、一定の交通量がありました。コトノハの前には、バス停があり、コトノハの前のベンチでは、バス待ちの方が座っておられます。

昔ながらの建物が多く、リノベーションされて、コンバージョンされている建物もありました。画像は元々山岸薬品というお店でしたが、今はリノベーションされて、作家さんによるハンドメイドのアクセサリー作品などが販売されているお店もあります。

【「おんせん図書館みかん」へ】

ゼミのフィールドワーク2日目に訪れた「おんせん図書館みかん」は、加賀市の山代温泉に位置しています。金沢駅から電車とバスを乗り継いで向かいます。最寄り駅である加賀温泉駅は新幹線停車駅なので、新幹線を使えば最速のかがやきでは14分足らずで到着することができます。私たちは、IRいしかわ鉄道に乗り、46分ほどで向かいました。地方公共鉄道の有難みを感じます。長野県！大系線を廃止にしないでほしいです。



【みかんの本棚オーナー制度とその特典】

まずは、みかんの本棚オーナー制度についてご紹介します。みかんの本棚オーナーは、「一般」「大学生」「応援棚」の3つのコースに分かれており、それぞれ料金や棚の位置、そして特典が異なります。自分に適したコースを選択できるので、参加のハードルが下がります。

各コースの料金



	一般	大学生	応援棚
月々払い	2,000円/月	1,000円/月	1,000円/月
年間払い	22,000円/年	11,000円/年	11,000円/年
特典	あり	あり	お店番のみ

一箱本棚オーナーの棚

さて、コースによって異なる特典とはなんのでしょうか。みかんでは、本棚オーナー限定で、4つの特典を用意しています。

①1日図書館長（お店番）の権利

ぼたんではゼミ生が担当しているお店番を、みかんでは本棚オーナーの方と協力して担っています。来館者の方の応対だけでなく、本の貸し借りなどの事務的な作業も行います。金銭管理も含め、信頼関係で成り立っているとおっしゃっていました。

②イベントの無料開催

本棚オーナーの方がお店番を担当した日に、施設を無料で利用して、なんでも好きなイベントを開催することができます。イベント内容や回数に制限が無く、多彩なイベントが開催されていることも、みかんの魅力の一つです。

実際に私たちも、みかん最高齢の本棚オーナー様（元お菓子屋さん：揚げせんべいも販売されていました。）が主催する「太極拳体操」のイベントに参加させていただきました。太極拳の緩やかな音楽が流れ、私たちは、オーナー様の指導に沿って、体をぎこちなく動かし、フィールドワークの疲れを、癒すことができました。全国から長野県長野市の大学で学ぶ学生が、加賀温泉で太極拳を地元の方々と一緒にするという不思議な体験です。





③コワーキング利用割引

施設の2階がコワーキングスペースになっており、本棚オーナーの方であれば利用する際に割引を受けることができます。

④施設の貸し出し利用（有料）

イベントの開催以外に、有料で施設を借りることができるようになります。

本棚オーナーになることで、このような特典を受けることができます。ぼたんではゼミ生が担う店番や、ゼミ生から本棚オーナーの方に依頼することが多いイベントスピーカーを、みかんで「特典」とポジティブに表現していました。実際に、店番やイベントを通じて本棚オーナーの方が、他のオーナーや利用者、地域の方と関わりやすくなり、みかんは「居場所」として機能している印象を受けました。

【居場所としての空間づくり】

他にも、みかんには来館者どうしの交流を盛んにする工夫が施されていました。会話のおともになるコーヒーの提供や、お子様連れには嬉しいであろうキッズスペースやおむつ替えスペースを用意し、長居しやすい空間づくりがされていました。みかんで、オリジナルブレンドのコーヒーを300円で提供しています。購入者が自分でコーヒーを淹れるセルフ式です。私たちがみかんを訪れた日も、本棚オーナーの方々がコーヒーを飲みながらソファで談笑されていました。移住者の拠点にもなっており、東京から移住を検討されているカップルが訪れていました。

【「みかん」と「ぼたん」】

開館した2020年から来館者どうしの交流を大切にしてきた「おんせん図書館みかん」は、本棚オーナー数が77名（2026年2月11日時点）になり、多くの人の居場所となっています。地元の図書館がオーナーの棚もありました。私たちがお邪魔した時に、札幌市から、能登半島地震のボランティアが縁で移住されてこられた看護師の方にお会いすることができました。長野からの移住者の方もおられました。

私たち「まちかど図書館ぼたん」も居場所として利用していただけるような工夫が必要です。みかんの

の取り組みを参考にしながら、私たちも人と人とを繋げられるような運営や企画を考えていきたいです。

【ぼたん座談会】

普段からぼたんを利用してくださっている方だからこその気づきや、これからの可能性についてのアイデアが数多く寄せられ、とても充実した時間となりました。今回はその一部をご紹介します。



【カフェがあると、人と人の距離が近くなる】

コトノハと温泉図書館ミカンにもある、カフェ機能について話題になりました。その中で多くの方から挙がったのが、「飲み物や軽食があると、もっと人が集まりやすくなるのではないか」という意見です。本を読むことが目的で訪れた人も、コーヒーを飲みながら少し休憩したり、隣に座った人と自然に会話が生まれたりすることがあります。実際に他のみんとしよでは、コーヒーや紅茶を提供することで滞在時間が長くなり、人と人の交流が生まれやすくなっているそうです。また、「たくさんのメニューがあるよりも、まずはシンプルに始めるのがよいのでは」という意見や、「ハーブティーや中国茶のような少し特徴のある飲み物も面白そう」という声もありました。

ぼたんも今後カフェの開設を考えているので、利用者の方々から意見を聞くことが出来る良い機会になりました。

【学生が運営していることは、ぼたんならではの魅力】

座談会では、「学生が運営していることが、ぼたんの大きな特徴だと思う」という声もありました。ぼたんは県立大学の学生が中心となって運営しています。

地域の方々と学生が出会い、お互いの経験や考えを共有できることは、ほかの施設にはない魅力のひとつです。参加者の方からは、「学生だからこそ挑戦できることがある」「若い人たちが地域で活動している姿を見ると元気をもらえる」という温かい言葉もいただきました。私たち学生自身も、改めてぼたんの特徴や役割について考える機会となりました。

【こんなイベントがあったら面白そう！】

今後のイベントについてもたくさんのアイデアが寄せられました。地域で活躍している方や、面白い活動をしている方を招いてお話を聞く企画や、県立大学の卒業生で起業した方のお話を聞く会など、「人」に焦点を当てたイベントへの期待が大きくなりました。また、「一方的に話を聞くだけでなく、参加者同士も話せるような場があるとよい」という意見もありました。ものづくりのワークショップや手芸体験、ボタンという場所ならではの企画が案としてあがりました。さらに、高校生や大学生が参加しやすいイベントがあれば、若い世代とのつながりも広がるのではないかという声もありました。ぼたんらしいイベントのあり方について、今後もみなさんと一緒に考えていきたいと思えます。

【オーナーさん同士のつながりも生まれています】

本棚オーナー制度についても多くの話が出ました。オーナーさんからは、「ここでしか出会えなかった人と知り合えた」、「本をきっかけに会話が生まれた」、「地域とのつながりができた」という声をいただきました。本棚は単に本を並べる場所ではなく、人と人をつなぐきっかけにもなっています。

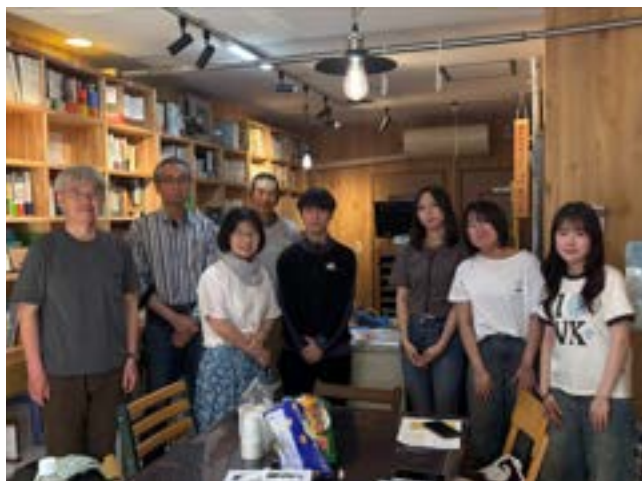
一方で、「初めて来た人にはオーナーさんのことが少しわかりにくいかもしれない」という意見もありました。オーナー紹介カードやおすすめ本の紹介などを工夫することで、より親しみやすい空間になるかもしれません。

【地域とのつながりを広げていくために】

周辺のお店や地域で活動しているの方々との連携についても話題になりました。近くのコーヒー店や手芸店、ものづくりをしているの方々など、地域には魅力的な活動がたくさんあります。「長野には面白い活動をしている人がたくさんいるので、もっと交流の場をつくってほしい」という声もありました。ぼたんが本だけではなく、人や地域をつなぐ場所になれば素敵だなと感じています。

【終わりに】

今回の座談会では、たくさんのご意見やアイデアをいただきました。その中で特に印象的だったのは、「人と人が自然につながれる場所であってほしい」という思いでした。本を通じた出会い、地域とのつながり、世代を超えた交流。ぼたんには、そんな小さな出会いが生まれる魅力があります。いただいたご意見を参考にしながら、これからもみなさんと一緒に、居心地のよいまちかど図書館を育てていきたいと思えます。ご参加頂いた皆様、本当にありがとうございました。



北石堂町の屋台は、今年ちょうど100年を迎える！

ながの祇園祭という伝統ある祭りに、参加させて頂き、多くのことを学ばせて頂きました。まだ、細かな分析などできておりませんが、速報レポートをお届けしたいと思います。

長野では、祇園祭は、「御祭礼：ごさいれい」と呼ばれ、中世から行われていました。近世には、6月13日、14日両日に行われていました。町を東西に分け、東は大勧進が、西は大本願が治めました。この屋台（山車）は、寛政五（1793）年にできたもので、そのほとんどは、弘化四（1847）年の善光寺大地震で焼失した。その後、徐々に新造された。現在の山車は、大門町が安政六（1859）年で最も古い。東町・西後町が明治5（1872）年、間御所町が明治6（1873）年、桜枝町が明治28（1895）年などであり、いずれも妻科の山崎儀作（立川流）である。



祇園祭は、はじめ善光寺領だけで行っていたが、西後町（松代領）は宝暦8（1758）年に屋台を作って加わり、権堂町も行列に参加し、明治5年に間御所が、明治7年に横沢町、立町、元善町が参加した。千歳町は明治42年、新田町・末広町・南千歳町は大正14（1925）年に、南・北石堂町は大正15（1926）年に、緑町は、昭和27（1952）年に参加した。緑町は、昭和29年、鬼無里村松原から屋台を購入した。ということであるから、北石堂町の屋台・山車は、今年ちょうど100年を迎えることになる。

お祭り前日の6月6日、午後1時に、北石堂町区公会堂横の屋台蔵前に集合。屋台を屋台蔵から出して、清掃をさせて頂いた。100年前に作られたとは思えないほど、綺麗である。

屋台は、丁寧に、白布で各所を保護され、丁寧に片づけられていた。山崎儀作による作りも立派である。日頃は見られない貴重なアングル！



屋台蔵から屋台（山車）を出す。



本日は、快晴。屋台を掃除するには絶好の日和である。まず、屋台を蔵から出す。屋台は、北石堂町区の貴重な財産である。

屋台を出すのは、主に男性陣。昨年も祇園祭に参加されたこともあり、とても手際が良い。

祭りの運営も、区の役員の方々である。役員の高齢化もあるので、ご高齢の方が多い。

私たちは、まず、お邪魔にならないように、遠巻きで拝見しました。とても暑い日で、水分補給のために、ペットボトルのお水が私たちも含めて全員に配布された。これは、区費から出して頂いているのでしようね。



山車は、曳山（ひきやま）、山鉾（やまほこ）、山笠（やまかさ）などと、全国各地で様々な名称があるが、ながの祇園祭では、屋台（やたい）と呼ばれている。

屋台（山車）をJAビル前に移動する。



長野の屋台は、全国でも珍しい二輪である。善光寺に行くには坂を上がり、帰りは下りとなる。屋台の上には踊り手さんたちが乗っているため、四輪だと坂道では、舞台が傾いてしまう。そこで、坂道でも舞台の床を水平に保ち、小路でも小回りの効く二輪となっているそうである。先人の工夫である。坂道を通るときには、舵取り衆が、屋台の前方に突き出た轆（ながえ）をうまく上下させ、屋台が傾かないように操作するという。

6月7日（日）ながの祇園祭当日！朝8時！

ながのパルセイロレディーズの子供たちが屋台を曳くお手伝いに来てくれる。鳴り物は、山本謙竹社中の皆さん。一番の若手は、三味線を弾く小学二年生！私たちも法被を着て、屋台の曳き手になる。本日参加は、3年の赤羽、鈴木、田中、宮崎と築山先生。



お昼は、法被を着ている人は、三つの店舗で、食事OKとなる！

お昼は、北石堂町区内の三つのレストランで、北石堂の法被を着ている人は、無料で食べられるとの連絡が入り、皆でお食事。私たち4名は、「飛騨」を選択。小林稔区長さんも一緒でした。相席になった北石堂の法被を着ている方々（男性の30・40代）にインタビュー。三人とも、北石堂区には子供の頃には住んでいたけれど、今は住んでいないとのこと。高田や、青木島など、遠くから来られています。今も北石堂町に住んでいる先輩からの連絡で、6月7日に実施するというので、参上。青木島の方は、北石堂町の消防団にも所属しているとのこと。中心市街地の都市祭礼が、そこに住まない方々によって、維持されていることを知る。



この祇園祭（地方都市祭礼）から何が見えてくるものは？

1. 祭りを支える組織とその変容

ぎおん祭りには、23の山車がある。昭和40年に毎年開催を断念し、記念行事に合わせて開催、平成24年以降は、毎年開催が復活した。23のうち4つが曳き回される。二つが起き屋台となる。山車は、町々が所有し、町は、地域住民組織（長野市では区と呼ぶ）がユニットとなっている。山車の上で踊る立ち方、後見は、藤間千勢津社中、お囃子は山本謙竹社中が担当している。権堂町は、お囃子保存会があるが、北石堂にはない。

山車を曳くには、多くの人手が必要であるが、現在では、その多くが他地域から来ている。地方都市の祭礼は、伝統的な商家町の社会構造を反映し、町内において経済力と威信を持つ商家が中心となって、継承され、その社会構成原理を時代に応じて、再構築する役割を担った。祭礼は地域社会の再生や共同性、関係性を構築してきたが、それが今や大きく変容してきている。



2. 地方都市：中世・近世以来の歴史を持つ

地方都市の町内は、都市を構成する名望家層の「家」を中心に構成されていた。都市祭礼は、「町内」自体が担い手となっている。都市祭礼をとらえることで、「町内」社会を構成する人々のあり様・社会的ネットワーク、町内社会と行政、経済団体との関係性などをとらえることができる。町方は、近世の門前町のうち商家や職人によって構成されていた。町内会は、町内という住民の相互扶助的な地域共同生活の単位を代表する意思決定機関である。町内をコミュニティとするならば、町内会はアソシエーションである。

3. 町内社会の継承と変容

近世、明治期以来の町内社会が現代まで継承されているわけではない。商店の後継者となっていた人々の多くは、サラリーマンとなって郊外に新たな住まいを構えたり、進学や就職により、大都市へ移動していった。郊外の大型商業施設の増加などにより、中心市街地の商店の経営が悪化した。その結果、商店は継承されず、土地の所有者と利用者が大きく変わる状況となった。一方で、町内の社会関係は、新しく移住してきた人々を排除したり、あるいは選別したりしながら受け入れ、地理的には離れた地域に住んでいる出身者を、その内部に含みこむ形で、町内社会を変容させながら継続することとなっている。

4. 町内結合の手段としての都市祭礼

都市祭礼は、町内と家を軸とした社会関係を構築する共同行為である。村落と違い、都市町内は、生産の共同にもとづく社会ではなく、それが一体となった形で正業に関連した生産物を産み出すことはない。そこにあるのは、多くの異なる職業を持つ家の集団である。共同を通じて発生する村落結合が、自然状態では存在しない。町内では、生業の単位は、家である。村落における入会地や生産に不可欠な共同の資源や財産、それらの管理を通じて必然的に創出される社会関係は存在しない。そのなかで、都市祭礼は、町内を構成する家が参加する、定期的かつ大規模な生活共同である。生産の共同やそれに結び付いた資源・財産がない町内においては、それに代わる共同の資源・財産として挙げられるのは、町会所、神社、祭礼に用いられる山車や道具である。

それらを維持、管理するための金銭や知識を伴う共同行為、それらを用いた祭礼を通じてその町内の威信を外部に示し、熱狂や興味を創出することを通して、町内結合を発生させる。

5. 郊外化、住民層の変容と都市祭礼

郊外化や町内の領域における人口減少や、住民層の入れ替わり、という状況において、家や町内といった観念をいかに変容させながら、人々は祭礼を継続させているのだろうか。そして、どのように、人々が協力しながら、また対立しながら、祭礼を維持しているのだろうか。地理的に移動した元の住民やその血縁を通い町衆として、祭礼に繋ぎとめながら、祭礼が維持されている状況をとらえながら、地域、コミュニティのあり方自体をとらえることができるだろう。そして、町内が、行政や、我々のような大学、外部のアクターを取り込みながら、祭礼を時代に合わせながら維持する、その歴史的な変容プロセスをとらえることができるだろう。このような問いに答えることで、町の在り方そのものをとらえることができるだろう。今後とも、祭礼に参加させて頂きながら、学びを深めていきたい。

踊り手の方々にもインタビューを試みた。若い方が多く、大学1年の方が最も年長である。長野県内の大学に通っているとのことであった。



全盛期の祇園祭は、長野市の祭りとして、近郊からも多くの人々を惹き付けていた。しかしながら、令和の祇園祭は、その担い手も大きく変容しているが、観客も大きく変容している。まず、その観客の少なさである。観客より、祭りの担い手の方が数が多いという関係である。今回の北石堂町区の祇園祭への参加は、インバウンド外国人の方々に、山車を曳いてもらい、写真撮影などをすることを目的に長野県から依頼されたことで成り立っている。

南千歳町の曳き手に、長野県立大学の学生諸君が20名ほど参加しており、地元大学生の参加が、祭りを支えていることが分かる。



Topic 03 6月23日、「古き良き未来地図」の取材を受けました！

今回、第6弾となる「古き良き未来地図」。長野市・善光寺門前の、古い建物をリノベーションして蘇ったたくさんのお店が掲載されているあの地図です。3年に1度更新しており、今回は、2023年秋以来。TOMOYAARTSこと鶴田智也さんが作っている。智也さんとは、しばし、松代駅についてお話しする。その場所に、道路など作らず、その場所で駅を残すべきだと。当たり前ができないことのもどかしさを感じます。取材は、「編集室いとぐち」の塚田結子さん。お二人とも、利用者になっていただき、塚田さんは早速一冊本を借りていられました！！



Topic 04 7月のイベントについて

7月のイベントは、以下の日程で、長野県立大学築山ゼミの学生が担当します。あまり、日がありませんが、皆様のご参加をお待ちしています！

7月4日(土) 13:00~15:00

スピーカー：長野県立大学築山ゼミの学生

テーマ：粘土で作る♪オリジナルマグネット～初参加・おひとり参加大歓迎！～

場所：まちかど図書館ぼたん

参加費：200円程度

Topic 05 開館時間について

ホームページ



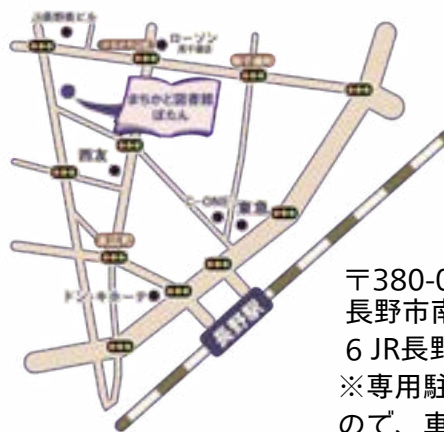
Instagram



開館時間は10時から18時までですが、ゼミ生と教員が店番をしている関係で、その時間内で、可能な時間に開館しております。詳細はホームページまたはInstagramで確認をお願いいたします。

<https://machikadobotan.com/>

Topic 06 アクセス



〒380-0826
長野市南長野北石堂町1185-6
JR長野駅から徒歩7分、
※専用駐車場はございませんので、車でお越しの際はお近くのコインパーキングへのご駐車をお願いいたします。



2026年6月30日発行

編集：長野県立大学 グローバルマネジメント学部 築山ゼミナール

住所：〒380-8525 長野市三輪8-49-7 B309研究室

Tel：026-217-2241（代表） fax：026-235-0026

E-mail：tsukiyama.hideo@u-nagano.ac.jp

主催：長野市中心市街地活性化協議会（事務局：まちづくり長野）